

2026年度	科目名	レポート・論文実践演習特論
	英語名	Advanced Seminar on the Practical Writing of Report and Thesis
	科目属性	専門科目A群
	担当教員	佐々木伸
	単位数	2単位(SC 0.5単位)

【授業概要】

スマホやSNSが全盛の今日、「文章が不得手」「どう書いていいかわからない」「参考書を読んでも書き方を理解できない」など、文章の前にたじろぎ、レポート・論文の執筆が苦手で、自信がないという学生が多い。

しかし、こうした学生は「文章が書けない」のではなく、「書き方」を知らないだけだ。どのような学修を積み、書けるようになるかを知らないだけでもある。レポートや論文を書くのに簡単で効率的な方法がないのか？苦しまずに楽しみながら書ける方法はないか？こうした疑問に応えるのが本講「レポート・論文実践演習特論」である。

文章には「伝える」「心を動かす」「論ずる」の3つの形式があることを学び、どんな文章も執筆の前にまず設計図を書くことが基本だ。設計図を引いてから、その設計図に基づいて文章の執筆に取り掛かる、というのがポイントだ。これが「設計図技法」であり、ストレスなく文章を書く方法である。

スクーリング授業では、実際にレポート課題に取り組み、そうした実践的な演習を繰り返すことによって、設計図作成の仕方、「序論、本論、結論」という基本形式と問題提起のやり方などレポート・論文の書き方を身に付けていく。

【授業計画】

第1回:文章の3つのパターン

第2回:レポート・論文とは何か

第3回:序論、本論、結論の役割

第4回:「問題提起」の重要性とその後の展開

第5回:執筆に必要な3つの力「メディアリテラシー」「要約」「執筆」

第6回:良い文章、悪い文章

第7回:文章表現のルール

第8回:「設計図技法」とは

第9回:設計図の基本的書き方

第10回:演習Ⅰ「100万円拾得事件」の執筆と講評

第11回:演習Ⅱ「星槎大学で学ぶ意味」のレポート執筆と講評

第12回:演習Ⅲ「平和と共生」のレポート執筆と講評

第13回:演習Ⅳ「コロナ禍とフェイクニュース」のレポート執筆と講評

第14回:引用の意味

第15回:不正レポート

*レポート課題、科目修得試験課題はSC資料の中で通知

【評価方法】

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。

【教科書】

- (1)SC資料「レポート・論文をストレスなく書くために」(佐々木伸)
- (2)「これから論文を書く若者のために」(酒井聡樹著 共立出版)
- (3)「レポート・論文の書き方入門」(河野哲也著 慶應義塾大学出版会)

【参考図書】